

「家庭・地域の教育力の向上と活用」に関する主な意見

1 家庭教育支援

- 家庭教育への支援は、保護者に、例えば睡眠や朝食に関してしっかりと科学的根拠を基に丁寧に伝えることが大事である。また、支援を受けた保護者が、支援をする側に回る循環のシステムをつくることが大切である。さらに、子供たち自身が家庭や社会の一員として主体的に役割を持つような支援が必要である。
- 子育てや育児について相談できる人がいないために不安を抱えている人は多い。そこで、様々な部署と連携して多様な人材による参画を促し、家庭教育支援員を養成する。次に、連絡会やケース会議、研修をしっかりと行い、家庭教育を支援する体制を構築する。そして、親子参加型行事などを実施して、家庭教育を支援していくことが必要である。
- 千葉県も熱心に家庭教育支援チームの設置に取り組んでいるが、他県から比べると残念ながらまだまだ少ない。
- 家庭教育支援のためには、保護者が学ぶ場を提供することは大切である。ただし、一方的に情報や知識を提供するのではなくて、ワークショップのような形でお互いに共感しあえる場をつくることが大切である。
- 乳幼児期の子供には、保育所や地域の中で、親と保育士・幼稚園教諭が一緒になって、子供の生活習慣について目標をつくる。そして、あまり無理なことは言わないで、できるところから取り組んでいくことが大切である。
- 就学後の子供には、ゲームなど子供たちの興味に合った取組を考えて、子供が主体的に生活習慣の改善に取り組むように支援することが大切である。
- 家庭教育への支援は、保護者がセルフ・エンパワーメント（自己強化、主体的行動の強化）ができるような支援を目指すとともに、支援を受けた保護者が支援する側に育つという支援の循環システムづくりが必要である。
- 家庭の教育力が、子供の体験格差につながっている。様々な体験活動を経験して育ってくる子供もいれば、全く日常的な体験を経験しないで育ってくる子供もいることを非常に危惧している。
- 子供たちに自然体験や生活体験、社会体験の場をあえてつくっていかないと、今はかなり厳しいと思っている。家庭に対してもいろいろな形でアピールをしている。家庭自体が多様化しているので、逆に、違いを力にしていこうと考えている。
- 家庭教育支援のためには、教科「家庭科」をもう一度見直して強化することが大切

である。家庭を営んで、子供を育てるためには、どのような考え方や技能を身に付ける必要があるのか、しっかり学ばせることが大事だと思う。

- 家庭や地域の教育力への支援を考えた場合、教育だけでは対応できない。やはり福祉、労働を含めて、縦割りの是正を心掛け、連携していくことが必要である。

2 地域学校協働活動

- 家庭、学校、地域全体で子供の成長を支える地域学校協働活動は、「学校がどう門を開くか」が課題であり、「地域の中で学校が必要とされているか、どうか」地域住民の思いの強さがとても大事である。
- 人生の経験を豊かに積んだ高齢者が、家庭、学校教育、全部含めて地域の中で子供たちを育てることに、生きがいを持って元気に貢献できるように、地域学校協働活動の取組の扉を開いてほしい。
- 家庭、地域、学校の連携を考えたときに、キーワードはコミュニティ・スクールであり、地域学校協働本部であり、放課後子供教室といった活動だと思う。このような活動を実質的に機能するようにしていくことがこれからの課題だと思う。
- 学校教育だけではなくて社会教育などを通じて、大人が社会の中で楽しんで生活していくウェルビーイング（主観的幸福感）が確保されていないと、子供たちが積極的に未来に向かっていけないと思う。